

第8回平和市長会議総会 会 議 I

2013年8月4日(日) 9:00~10:30

広島国際会議場ヒマワリ

議 長	松井一實（平和市長会議会長、広島市長）
議案説明	小溝泰義（（公財）広島平和文化センター理事長）

司会：

ただ今から会議Ⅰを開会いたします。議長は、松井一寛広島市長が務めます。
それでは、松井市長、よろしく願いいたします。

議長（松井一寛 広島市長）：

皆さん、おはようございます。グッドモーニングエブリバディ。ただ今から会議Ⅰを開会いたします。今日の提案に係る5つの議案は、いずれも昨日の理事会で承認を得たものでありまして、これについて、これから皆さんに審議・決定をお願いするものであります。

それでは、これより議事に入ります。

なお、会議Ⅰは平和市長会議の加盟都市による議案の審議・決定の場となっております。このため、加盟都市関係者以外の方はオブザーバーとして参加いただいております。平和市長会議の活動に理解を深める機会というふうにしていただければ幸いと考えております。

議案1「役員の選任について」

議長（松井一寛 広島市長）：

まず、議案1「役員の選任について」を審議していただきます。事務局からの説明をお願いいたします。

事務局（小溝泰義 広島平和文化センター理事長）：

ありがとうございます。平和市長会議事務局を務めます広島平和文化センター理事長です。議案の1、役員の選任について説明をさせていただきます。

お手元資料の1ページをご覧ください。まず、現状をご説明いたします。前回総会以降、4年前からカメルーンのフォンゴ・トンゴ市長、カナダのモントリオール市長、メキシコのメキシコシティ市長、ウルグアイのモンテビデオ市長、ノルウェーのフロン市長に理事に就任していただきました。

その結果、現在の役員の内訳は、会長が広島市長、副会長13都市、長崎市長、ハノーバー市長、ボルゴグラード市長、マラコフ市長、モンテンルパ市長、マンチェスター市長、アクロン市長、フィレンツェ市長、イーペル市長、ビオグラード・ナ・モル市長、グラノラーズ市長、ハラブジャ市長、そしてブリュッセル市長です。また、理事都市が5つ、フォンゴ・トンゴ、モントリオール、メキシコ

シティ、モンテビデオ、フロンです。再任することが可能となっています。

そして、すべての役員都市に対しまして事務局から連絡をとりました。3つの都市の市長は再任を希望しないという回答がございましたが、それ以外の役員都市、新規に理事に選ばれた市長を含め、引き続き、副会長、そして会長への就任を承諾されております。お名前を紹介させていただきます。広島市長が会長、そして長崎市長を含め15市長が副会長として、再任を希望するという回答をいただいております。詳細はお手元の資料に出ておりますが、この体制で役員の選任を承認いただきたいというのが、この議題の内容です。

議長（松井一實 広島市長）：

ただ今、事務局からの説明がありました。この議案について、何かご質問等ございますでしょうか。

ないようです。

それでは、お諮りいたします。

事務局（小溝泰義 広島平和文化センター理事長）：

議長、ここで紹介させていただきたいと思います。メキシコシティ市長、ご起立ください。そしてフロン市長。

メキシコシティ市長、フロン市長は新規に副会長となります。新たに就任されますので紹介させていただきました。

議長（松井一實 広島市長）：

ありがとうございました。それでは、今の新体制を含めて、本件について原案どおり可決することに賛成の方は拍手をお願いいたします。

（拍手）

議長（松井一實 広島市長）：

ありがとうございました。それでは、2017年の第9回の総会まで、副会長の皆さんには平和市長会議の中心メンバーとしてご協力くださいますようお願い申し上げます。

議案2「平和市長会議規約の改正について」

議長（松井一實 広島市長）：

続きまして、議案2－（1）であります。平和市長会議規約の日本語文に関してであります。この改正について審議をしていただきます。事務局からの説明をお願いいたします。

事務局（小溝泰義 広島平和文化センター理事長）：

議長、ありがとうございます。議案2－（1）、平和市長会議規約（日本語文）の改正についてであります。日本語におきましては市長という言葉が現在使われておりますが、これは市の首長でしかありません。しかしながら、実際のところ、町、村の代表も入ってくださっております。こういった方々も日本の加盟都市には含まれているということで、日本語版については市長から首長に変更するということです。それのみの変更であります。よって英語版には変更はありません。ありがとうございました。

議長（松井一實 広島市長）：

ありがとうございました。ただ今事務局から説明がありました、この議案についてご質問がございますでしょうか。

ないようであります。

それではお諮りいたします。本件を原案どおり決定することに賛成の方は拍手をお願いいたします。

（拍手）

議長（松井一實 広島市長）：

ありがとうございました。平和市長会議の日本語名称を平和首長、市長から首長ですね、首長会議に変更することで、日本のより多くの自治体が平和首長会議に加盟しやすい環境を整えることができるようになりました。

本日お集まりの日本国内の加盟都市の皆さんには、近隣に未加盟の自治体がありましたら、ぜひ、平和首長会議への加盟を呼びかけてくださるようお願いいたします。なお、広島市長といたしましては、国内の各都市が100%平和首長会議に入っていただくことを目標としておりますので、どうか、よろしくお願いいたします。

続きまして、議案２－（２）の平和市長会議規約、日本語文・英語文双方であります。改正について審議をしていただきます。事務局からの説明をお願いいたします。

事務局（小溝泰義 広島平和文化センター理事長）：

皆さん、お手元の資料の４ページ、日本語版の資料では５ページをご覧ください。

まず、１番目の項目「改正の趣旨」についてであります。目的であります、近年の加盟都市の拡大や今後の活動内容の充実に対応するために、事務局に事務総長および事務次長を置くなど、事務局にかかわる規定について所要の改正をしようとするものです。

第２番目の項目「改正の内容」をご覧ください。規約の第１１条に事務局の設置と書いてあります。現行では広島市に事務局を置くとなっております。これは、その場所が広島市内であるという意味です。これを実態に合わせるために、公益財団法人広島平和文化センターに事務局を置く、に改正しようとするものです。よって、新しい改正文であります、「事務局を公益財団法人広島平和文化センターに置く」ということになります。

次に第１２条の職員に関する規定です。これも改正の対象になっております。現行では第１項におきまして、次のように規定しております。「事務局に事務局長のほか若干名の職員を置く」となっております。これを「事務局に事務総長及び事務次長のほか若干名の職員を置く」に改正しようとするものです。また、日本語版については事務局長を事務総長に変えるということになりますが、英語文におきましては両方ともセクレタリージェネラルであり、変更はありません。

それから、２つ新しいパラグラフを追加いたします。まず、第２項であります。「事務総長は、広島平和文化センター理事長をもって充てる」ということです。

そして、第３項として「事務次長は、広島平和文化センター常務理事をもって充てる」ということになります。これは事務局である広島平和文化センターのトップと次席にある者を充て、事務局の体制強化を図ろうとするものです。よって、現行の第２項が第４項となり、内容としては「事務総長及び事務次長以外の職員は会長が任命する」となります。さらに新しい２つのパラグラフ、第５項、第６項を入れます。

まず、第５項については「事務総長は、事務局の事務を統括する」。そして、第６項については「事務次長は、事務総長を補佐し、事務総長に事故があるとき又は事務総長が欠けたときは、その職務を代理する」という規定を設けることに

なります。施行期日であります。3番目の項目に示されておりますとおり、2013年8月6日といたします。

資料に改正後の規約を添付しておりますので、参考にしていただきたいと思いません。

それから、理事会の会議におきまして、広島市長が広島平和文化センターの理事長、常務理事を任命する場合、彼らは平和市長会議の事務総長、それから事務次長になりますので、副会長に対してインフォーマルに、非公式に協議をしてほしいとの要請がありましたので補足します。そうすることにより、事務総長、事務次長が、しっかりと事務局を運営していけるということを確認するということになります。

以上です。

議長（松井一實 広島市長）：

事務局から説明がございました。この議案についてご質問等ございますでしょうか。

ないようです。

それではお諮りいたします。本件を原案どおり決定することに賛成の方は拍手をお願いいたします。

（拍手）

議長（松井一實 広島市長）：

ありがとうございました。この改正によりまして事務局体制の整備を図ることになります。引き続きスタッフが力を合わせまして、事務局の業務充実に取り組んでまいりたいと考えております。

議案3「平和市長会議運営体制の充実方策について」

議長（松井一實 広島市長）：

続きまして、議案3「平和市長会議運営体制の充実方策について」を審議していただきます。事務局からの説明をお願いいたします。

事務局（小溝泰義 広島平和文化センター理事長）：

次は議案3「平和市長会議運営体制の充実方策について」です。私どもの活動を拡大していきたいと考えています。新しいイニシアチブを展開していきたいためです。事務局におけるキャパシティをさらに充実していくということ、ファンディングについても留意するということが必要です。皆さんは11ページをご覧ください。

まずは趣旨です。1982年に設立された平和市長会議は、今や世界157カ国地域から5,700以上の都市が加盟する組織にまで拡大いたしました。まずは、このネットワークを実際に機能するものにしていきたいと考えています。そして、一つはリーダー都市をつくるということです。そして、また財務の問題も次にあります。まず、一つの方策ですが、地域のグループ化の推進と地域活動の活発化をするというところにあります。

(1)をご覧くださいますと、リーダー都市の選定と、その役割について書いてあります。もっと主体的かつ自主的に、各地域特性を踏まえながら活動を展開するというこのために地域のグループ化を図ります。ただ、これは非常に頑強なものではなく、状況に合わせた形で柔軟性を持って対応するということになります。

実際的に、また、かつ効果的な地域グループ化を図ります。そして、相当数のリーダー都市を選定し、支部をつくります。各々の地域においては共通項として核兵器の廃絶を目的としていますが、しかし、貧困であるとか各々の地域の問題を抱えているところもあるわけですから、地域のこういった問題に関しては、リーダー都市を中心に地域で活動していくということを行うためです。

それから、役員都市以外がリーダー都市に選定される場合は、この当該都市は同時に役員都市に選任されます。この取組ですが、年度としまして2015年、これから2年後に開始することになっています。

次の方策ですが、メンバーシップ納付金制度の導入です。(1)の基本的なスキームに関してですが、メンバーシップを維持しつつ、平和市長会議という機能を加盟都市全体で支える体制をつくるために必要であると考えています。そのために各都市は1都市当たり毎年2,000円のメンバーシップ納付金を負担いたします。また、任意での2,000円を超える負担も歓迎いたします。また、仮に納付金を負担しない都市があったとしても、その都市を離脱させることはしないということにします。基本としては自主的にということになるわけですから。

また各都市はリーダー都市を通じ、もしくは直接に納付金を広島事務局に送付します。ただし、地域グループ内での活動に充当する資金が必要になることや、特別の事情があるということ、また広島事務局への送金手数料が過大となるなど

の事情があり、広島事務局が認めるときには広島事務局への納付金送付を免除することができます。免除のメカニズムを導入しています。

また、地域内で核兵器廃絶に向けた取組を推進する他の自治体組織に分担金などを拠出する都市については、広島事務局はリーダー都市と協議の上、その納付金の負担を免除することができることとします。長崎や、それからイーペルは、2020のビジョンキャンペーンを活発に展開しておりますので、そういったところが、ここの部分にあたります。

また、広島事務局に送付されました納付金は、新規事業や既存事業の拡充のための財源とするということを優先的にいたします。この行動計画については後で申し上げます。余剰が見込まれる場合は従前の平和市長会議運営経費にも充当いたします。

どちらにいたしましても、広島市、長崎市は引き続き相応の運営経費の負担を行います。また、必要とあれば地域グループ内での平和市長会議の事業拡充と安定的な財政基盤確保のため、地域ごとのファンドレイジングに取り組むこととします。イノベティブな形でファンドレイジングをしていただくことを奨励いたします。私たちの資金基盤を長期的に確保していくということが必要であり、それにより長期的な行動を実施していきたいと思っています。ありがとうございます。

議長（松井一實 広島市長）：

事務局からご説明がございました。この議案についてご質問等ございますでしょうか。

ないようです。

それでは、お諮りいたします。本件を原案どおり決定することに賛成の方、拍手をお願いいたします。

（拍手）

議長（松井一實 広島市長）：

ありがとうございました。ただ今決定いたしました地域のグループ化の推進と地域活動の活発化、さらにはメンバーシップ納付金制度の導入について、今後皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。なお、2015年度からの開始に向けまして、事務局としては順次取り組む中で、その取組状況を報告させていただくことにいたします。

議案4「平和市長会議行動計画（2013年－2017年）について」

議長（松井一實 広島市長）：

続きまして、議案4「平和市長会議行動計画（2013年－2017年）について」を審議していただきます。事務局からの説明をお願いいたします。

事務局（小溝泰義 広島平和文化センター理事長）：

平和市長会議行動計画（2013年－2017年）についてですが、これも長い詳細を含んだ文章になります。ですので、重要な点のみに絞ってお話をしたいと思いません。

皆さんに理解を深めていただくために、まずは4点の重要な行動計画の背景となっている考え方をご説明いたします。まず、第1点は、平和市長会議は核兵器廃絶に向けたあらゆる活動を歓迎しますが、特に重点を置くのは核兵器禁止条約の早期交渉開始と締結の推進です。ですので、この点に焦点を置いていきますが、同時にその他の活動も支援していきます。

第2点ですが、平和市長会議の体制強化を行い、それにより効果的に活動を展開していきます。既に説明をしましたが、運営体制の充実を図り、また資金調達も強化していきたい、事務局の機能も強化していきたいと考えております。

また、この平和市長会議というネットワークの拡大です。素晴らしいネットワークでありますけれども、継続的に効果的なキャンペーンを行っていくためには、さらに同じような目的をもった組織やグループ、例えば、赤十字国際委員会やアメリカの全米市長会議、また、芸術団体、平和やスポーツの団体、オリンピックのゴールドメダリストの集まりと、その他とも協業していく必要があります。また、その他の都市や議会、平和活動団体との協業が必要です。この意味で平和市長会議としても、その他の同じ目的を持った団体との活動連携を強化していきたいということです。

そして4点目です。被爆から68年になります。被爆者の方々はこれまで世界に対して核兵器の廃絶に向けたメッセージを発信してきてくださいました。しかしながら、高齢化されていますので、実際の被爆の実相が、これから先は聞けなくなる可能性もあります。実際私たちは、その被爆の実相を直接体験したわけではないので、被爆者から話を伺うこと、証言を聞くことにより、核兵器の廃絶に向けて、同じ人類のために核兵器を廃絶し、そして新しい安全保障体制を確立していくというメッセージを伝えていく必要があります。

配付資料の13ページをご覧ください。日本語版では11ページになります。こち

らには、既に皆さんからいただいたコメントを反映しておりますけれども、主なポイントが3点あります。策定の趣旨については既に説明しましたので割愛させていただきます。

まず、1点目ですが、皆さんにご注目いただきたいのは大がかりな事業、プロジェクトについてです。2ページ目に、二つの主なプロジェクトが掲載されております。まず、第1に具体的取組のうちの一つ、加盟都市の拡大と平和市長会議運営体制の充実です。まずは平和市長会議としての機能自体を拡充することにより、様々な機能強化を図っていきます。加盟都市の拡大、地域活動の強化、また事務局の機能を強化していきます。それと同時に広島事務局の世界に対するプレゼンスを高めていきます。

2点目は核兵器の廃絶に関する国際的な世論を高めていくということです。これに対しては具体的な様々なアイデアがあります。例えば、加盟都市による原爆ポスター展示などを行うことができます。また、被爆者の証言をスカイプのテレビコンファレンスなどで提供することも可能です。これは非常に効果的な活動だと感じております。

被爆者の方々も高齢化しておりますので、あまり遠くへ行っていただくのは大変だということで、効果的だと思っております。また、「広島・長崎講座」を普及させていくという活動があります。このように、その他もろもろの同様の活動がございます。

すべてを説明することはしませんが、若い世代に向けた活動ということで、最後の一点になりますが、核兵器禁止条約の早期締結に向けた行動の要請です。相互理解を深め、そして同じ人類としての共同体意識を高める活動をしておりますが、それと同時に短期的な目標である核兵器禁止条約の締結に向けて動いていく必要があります。それが私たちの直近の目標であり、具体的取組の一つとなっております。

また、数々の国際会議等の機会をとらえつつ、その他の団体との協力をもとに、国際社会や各国政府に対して要請活動を展開していきます。さらに2020ビジョンキャンペーン大使を選任します。有名人、著名人の方を通じて、より効果的にメッセージの発信を行っていきます。

これらが要点になりますが、その他にも様々な革新的かつ興味深い具体的な活動が列記されておりますので、私からの口頭での説明はここでとどめたいと思います。基本的な点に的を絞って説明させていただきました。

また、追加の資料を配付してございます。1枚ものの追加資料です。理事会で行動計画の具体的な審議・議論を行いまして、二点、修正について合意しました

ので、追加しております。

まずは具体的取組のところ、加盟都市の拡大と平和市長会議運営体制の充実についてです。ローマ数字のi、ファンドレイジングのところ、現行は非常に簡潔な文面となっておりますが、こちらのほうを、「提携できる主体との共同の取組や特定のイベントとの連携による資金確保など、メンバーシップ納付金以外の財源確保に最大限取り組むものとし、そのための効果的な資金調達戦略を立案し、実施する。」ということを加筆する提案をいただきました。これは、つまり、平和市長会議としてのファンドレイジングだけではなく、その他との共同の取組等の資金確保により、より効果的に資金調達を行うというものです。これが一点目の修正です。

二つ目ですが、具体的取組の「2 核兵器廃絶の国際世論の拡大」の下にある項目です。「(2) 多様な主体との連携・啓発活動の推進等」で、「ネットワークの構築に努めるとともに、これらが行う各種活動との連携を図る」とある部分について、グローバルネットワーク・アボリション2000、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）などの具体的かつ重要な協力主体を付記し、明確化するという修正です。これらの修正は、基本的な内容は変わりませんが、提案の趣旨をさらに強化しようとするものです。

以上です。

議長（松井一實 広島市長）：

事務局から、理事会においての二点の追加修正を含めての説明がございました。この修正を含めた議案についてのご質問等ございますでしょうか。

ないようであります。

それでは、お諮りいたします。本件について、理事会での修正を含めて、原案という形で決定することについて、賛成の方は拍手をお願いいたします。

（拍手）

議長（松井一實 広島市長）：

ありがとうございます。今後、この行動計画に基づきまして平和市長会議の取組を強化してまいりますので、引き続き皆様のご協力を、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、会議Ⅰの内容は終了いたしました。

ところで、役員都市がこんな形で一堂に会するという機会はなかなかございま

せんので、この際、この壇上に並んでいる役員都市から、差し支えなければ一言ずつごあいさつをいただいたらどうかと思います。準備よろしいですか。

じゃ、私の右サイドのほうから、順次、お願いします。長崎市長、お願いいたします。

田上富久（長崎市長）：

皆さん、おはようございます。長崎市長の田上富久と申します。

長崎市はご存知のように、広島に原爆が落ちた3日後に原爆が落ちた町です。それから、今ともに広島市と核兵器のない世界を目指して行動を続けています。

今日の平和市長会議の総会は、私たちにとっても非常に大事な会議になるというふうに思っています。それは平和市長会議のメンバーが5,000を超えた時点から、量だけではなくて質の高い行動ができる組織になろう、あるいは資金調達も含めて、しっかりとした体制を持った組織になろうということで、この2年余り、役員都市において様々な議論を交わしてきました。その結果、今、総会により皆さんにご了承いただいたのがその内容です。

会員になっているメンバーの皆さんに平和市長会議のメンバーになってよかったというふうに、誇りを持ってもらえるように、そして、また実際に核兵器のない世界に向けて力強い推進力となるように、これから役員都市、皆さんと一緒に力を合わせて進んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

議長（松井一實 広島市長）：

ありがとうございます。では、マラコフ市さん、お願いします。

ミシェル・シボ（マラコフ市市長特別顧問・フランス）：

マラコフ市はパリのすぐ近くです。マラコフ市はこの会議に参加することを大変嬉しく思っています。そして以前の会議もすべて参加しております。私たちは新しい時代に入りました。人間たちが作り出した巨大かつ破滅的な兵器の力で地球の一部を破壊するようなことがあってはなりません。ですから、この私たちの組織が、いかに発展していくかということが重要になってきます。フランスで、私たちもこの問題について討議しました。

それでは、隣の方にマイクを渡したいと思っております。

マーク・ハケット（マンチェスター市議会議員・イギリス）：

マーク・ハケットと申します。

マンチェスターの市議会議員であり、英国非核自治体協会の会長も務めております。キャンペーンは、もう何年も行ってまいりました。核軍縮を目指し、努力をしてきました。これは非常に重要なプロセスの一部であり、今は困難な状況にありながら、平和市長会議が5,000を超える加盟都市を迎える中で、もっと深いキャンペーンを実施していく時期に来ていると思います。そして、そのために強固な基盤が必要になってきていると思います。世界中の何十億もの人を巻き込んで、核兵器のない世界を目指して活動していくべき時期だと思っています。

議長（松井一實 広島市長）：

次に、ビオグラード・ナ・モル市。

ヤスミンカ・バリヨ（ビオグラード・ナ・モル市参事官・クロアチア）：

おはようございます。

ヤスミンカ・バリヨと申します。ビオグラード・ナ・モルというクロアチアの沿岸の都市、アドリア海に面した都市を代表して、今日参りました。2007年に加盟しておりますので、比較的新しい加盟都市かと思いますが、今回役員都市に再選されたということ非常に嬉しく思っております。

クロアチアは国としては若い国です。民主化が始まったのは20年以上前でありましてけれども、戦禍に苦しんだ国であります。そういった意味で、この平和市長会議に参加できているということは、非常に重要だと考えております。どの国においても同じとは思いますが。

加盟以来、もう6年となります。そして、加盟都市が2倍になったというふう聞いております。このように平和市長会議の一部になれたということ、非常に嬉しく思っております。平和市長会議が世界の人たちに影響を与え、人々に核軍縮について考えるようになってもらいたいと思います。それを強く願っております。

議長（松井一實 広島市長）：

ハラブジャ市長さん。

キダー・カリーム（ハラブジャ市長・イラク）：

おはようございます。ハラブジャ市の市長であります。

化学兵器の攻撃を受けた町であります。平和市長会議の加盟都市の皆さん、皆さんとともに核兵器、そして化学兵器のない世界を目指したいと思っております。

それにより平和がもたらされると思います。すべての地域、特に中東地域では多くの問題が既に発生しています。皆さんに感謝をします。

議長（松井一實 広島市長）：

フロン市の市長さん、お願いいたします。

トーレ・ベツビィ（フロン市長・ノルウェー）：

ノルウェーのフロンの市長です。トーレ・ベツビィと申します。ノルウェーは多くのイニシアチブを長期期間にわたってとってまいりました。今後ともその決意です。ノルウェーの市長たちを代表して参加することができ、非常に嬉しく思っております。

これは、あなたがどの党派かということには関係のないことだと思います。ノルウェーの新聞を見ますと、7名の市長がいれば7つの党出身だというふうに出ておりますが、いずれも軍縮の声を上げています。こういったことで加盟都市も増えてくるのでしょうし、そして問題に焦点を当てて活動できるのだと思います。私はここに来ることができ、非常に光栄と思っております。また、このたび副会長に就任できたことを光栄に思っております。

議長（松井一實 広島市長）：

次に、ハノーバー市。よろしく申し上げます。

ポール・シュナイダー（ハノーバー市国際交流課長・ドイツ）：

おはようございます。ポール・シュナイダーと申します。ハノーバー市長の代理として、ここにおります。広島には来ておりますが、ハノーバーにとっては二つ重要なことがございます。今回広島との姉妹都市提携30周年であるということ。そして、この平和市長会議に参加して30周年だということで、二つのお祝い事がございます。

ドイツの400の都市、例えば、シュトゥットガルトなどが平和市長会議に参加しております。先ほどベツビィ市長もおっしゃったんですが、ドイツの主要新聞にドイツにおける平和市長会議の広告記事を出しました。議会と協力をしている、NGOと協力しているということを出しております。地域レベルでの活動を強化するということが、先ほど採択されました。これが今後、私たち組織の方向性の一つになってきます。市長の間のネットワークを強化していくということ、そして、それを通じて核廃絶を目指していきたいと思っております。

議長（松井一實 広島市長）：

モンテンプルパ市さん、よろしくお願いします。

マリサ・コール・ロンガビラ（モンテンプルパ市国際室長・フィリピン）：

市長、おはようございます。マリサ・コール・ロンガビラと申します。フィリピン、モンテンプルパの市長に代わり参加しております。市長がこの会議に参加しなかったのですが、市長選挙の直後であるということで、市長自身が参加できなかったことをお詫び申し上げたいと思います。

モンテンプルパというのは非常に小さな町であります。しかし、共通点はあると思います。日本人の墓地があるのです。戦争中に亡くなった日本兵士の墓地があります。そして過去から学ぶべきだという強い気持ちを持っています。今、よい友人になりました日本の皆さんとたくさんの日本の方が私たちの町に来られます。そういったことで、私たちはこの総会に参加し、今回初めて、直接いろんなことを学ぶことを非常に嬉しく思っております。

2020のビジョン、これは実現できると思います。核兵器を廃絶できると思います。

ありがとうございます。

議長（松井一實 広島市長）：

次に、イーペル市。

ドミニク・デハネ（イーペル市議会議員・ベルギー）：

おはようございます。ドミニク・デハネと申します。ヤン・デュルネズ新市長の代理で参りました。選挙があり、そして市議会も刷新されましたが、だからといって、これまで行ってきたイーペル市の平和市長会議への関与が変わるものではありません。若い世代が出てまいりました。そして若い世代が頑張っていて、これまで先人が築いてきたことを引き継いでいきたいと思っております。

今後は、イーペルにとって非常に重要な時期になります。イーペル市は、100年前、第一次世界大戦中に人類史上初めて毒ガスが使われた町であることを踏まえて、平和市長会議の活動や私たちが掲げた目標に取り組んでいきたいと思っております。また、2020ビジョンキャンペーン協会の事務局がイーペルにございます。そして、その努力は今後とも続けていきたいと思っております。ありがとうございました。

議長（松井一實 広島市長）：

グラノラースから、お願いいたします。

ジョセフ・マイヨラル（グラノラース市長・スペイン）：

ジョセフ・マイヨラルでございます。私どもの市は6万人のバルセロナに近いカタルニア州にあります。皆さんと、この会議に参加できることをとても喜んでおります。

この会議は私たちにとって非常に重要であります。平和首長会議には世界の5,700の都市の加盟があり、その人口は10億人に及んでいます。これは世界で最も重要な首長会議体であります。そして、また世界において、平和を達成するための非常に重要な場でもあります。多くの市民が、私たちのこの活動が成果をおさめることを願っているわけであります。そして私たちは核兵器を廃絶し、そして平和な世界を築くための仕事をしているわけであります。

そして私たちは、今後大きな飛躍を遂げたいと思います。今、私たちは非常に重要な問題に直面しているわけであります。それは組織上の問題もありますし、特に、この新しい必要性に対応することが必要です。また、地域的な問題の解決にも寄与しなくてはならないと思います。従って、この総会は、私たちにとって非常に重要であり、私どもは新しい段階に入ろうとする状況にあると思います。

私ども、この総会のメンバーは、これからもこの活動を強化していきたいと思っております。

ローザ・ロドリゲス（メキシコシティ市社会開発局長・メキシコ）：

松井広島市長並びに平和市長会議の市長の皆さん、またヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、オセアニア、アジアの市長の皆さん、私から、ミゲル・アンヘル・マンセル・スピノッサ メキシコシティ市長のごあいさつを代読させていただきたいと思っております。

今回は、このような素晴らしい招待をいただきまして、第8回平和市長会議総会に参加できることを心から嬉しく思います。この会議の中では私たちの友好都市が一つの目的のために集まっております。そして国民のための平和の達成を目指しております。メキシコシティの名におきまして、私は喜んで副会長の役割をお引き受けしたいと思っております。そして平和の文化のプロモーターになりたいと思っておりますし、暴力のない都市を目指してリーダーシップを発揮していきたいと考えております。

残念ながら、我が国の中では暴力の問題があります。それは社会的な格差、貧困の問題による暴力、そして移民の問題、そして非人間的な生活レベルから起き

ている問題であります。そういった状況の中で、私たちは2020ビジョンを展開していきたい。そして核兵器のない世界を目指していきたいと思っておりますし、それは実現可能であると考えています。

また都市の暴力を予防するために、また火器の使用を防止するために、2012年に私が市長の座につきましたときに新しいプログラムをつくりました。それにより家庭から暴力を排除する、武器を排除するためのプログラムを展開いたしまして、約6,800丁ほどの銃の廃絶を達成することができました。

現在、私たちは4年前からこういった努力を続けてまいりましたけれども、この政権になりましてもこの努力を続けているわけです。また教会も、この活動に参加しておりますし、市民団体もこういった努力を行っております。今回は、このような素晴らしい総会に招待いただきまして、どうもありがとうございました。

議長（松井一實 広島市長）：

後は、ポール、ジャッキー、アーロン、一言ずつ自己紹介をどうぞ。

ポール・デュイベッテル（広島平和文化センター専門委員）：

聞こえますか。おはようございます。ポール・デュイベッテルと申します。ベルギーからまいりました。長年にわたって主にベルギー、ヨーロッパで活動しております。最近はラテンアメリカ、ブラジルで4年仕事をしておりまして、この平和市長会議の国際的な発展と核兵器の世界の実現に取り組んでいます。ここ4年間、メキシコシティのような主要都市からのサポートをいただけるようになってまいりました。

ラテンアメリカは、歴史的に核軍縮のリーダー的な地域です。そして、国連で今年9月26日に開催される核軍縮に関する国連総会ハイレベル会合を全面的に支持し積極的に参加したいということを表明していただいています。そしてメキシコシティ市からの話にもありましたように、ラテンアメリカの市長たちは、ぜひ、この平和市長会議に参加したいというふうに考えています。広島、長崎の心、すなわち二度とこの悲惨なことが繰り返されてはならないということに共鳴し、2020ビジョンにも共鳴するという意見をいただいております。

ジャッキー・カバツソ（広島平和文化センター専門委員）：

おはようございます。ジャッキー・カバツソと申します。私は広島平和文化センター専門委員を務めております。そして北米の2020ビジョンキャンペーンのコーディネーターです。

第二次世界大戦の後、生まれたアメリカ人といたしまして、この間ずっと核兵器廃絶の仕事をしてまいりました。そして、広島平和文化センターで仕事をし、その中で被爆者の皆さんのメッセージを伝えるというとても重要な役割を担っていることを本当に光栄に思うと同時に責任感を感じております。被爆者のメッセージはとても重要であり、同じようなことが、誰に対しても二度と再び起こってはなりません。

この機会を頂きましたので、最近、山口仙二さん、とても重要な、素晴らしい指導的な被爆者でいらっしゃる、特に被爆者運動の初期の時代に、大きく活躍して下さった彼が亡くなったことに対して、心からお悔やみを申し述べたいと思います。

アメリカの全米市長会議、これはアメリカの大都市がつくっている自治体組織であります。最近大胆な決議を採択しました。これは全米の市に対して核兵器廃絶を求めるということ、さらにまた、軍事費ではなくて国民のニーズを満たすために予算を使えということでもあります。今日は残念ながら、アメリカのアクロン市長であり、平和市長会議副会長のドナルド・プラスケリックがまだ来ておりませんが、この夕方到着し、6日まで広島に滞在する予定であります。ありがとうございました。

アーロン・トビッシュ（広島平和文化センター専門委員）：

アーロン・トビッシュと申します。私は、この広島平和文化センターで仕事をしてまいりました。2020ビジョンキャンペーンの国際キャンペーンディレクターを務めております。

キャンペーンを始めて10年がたちました。次の会議2の第2セッションにおきまして、これまでの進捗のお話をし、今後数年間の計画についてもお話をするつもりです。

本日はこのような形で、緊密に、様々な広島の方々と、そして市民の方々と交流することができ嬉しく思っておりますし、と同時にますます広がっていく加盟自治体の仲間の皆さんと話をすることができて嬉しく思っております。かつて私が参加したときには、550都市だけでありました。しかし、10年たちまして、もう10倍にも加盟都市の数が増えました。これは大変な達成であります。

しかし、それはまた、世界に対しての私たちの影響力が非常に大きくなったということです。外交官、政府の首脳、様々な市町村の代表者にも話をしますが、かつてはなかなかこういった人たちに面会しにくかったし、話も聞いてもらえなかったんです。しかし、これだけ加盟都市が増え、世界各地で広島、長崎、さら

にまた2020ビジョンに対して連帯意識を持ってくださっていますので存在感が増しました。皆さん、ありがとうございます。

議長（松井一實 広島市長）：

会議Ⅰの円滑な運営にご協力をいただきありがとうございました。各理事都市の力強い発言もありました。核兵器のない世界の実現に向けて、ともに力を尽くしていきたいと考えます。どうか、よろしく願います。ありがとうございました。

司会：

次の会議Ⅱは、この会場で10時45分から開催をいたします。事前に会議Ⅱでの発言者登録をされた方々は、10時40分になりましたら会場前方のステージ付近にお集まりください。なお、ご退場の際には同時通訳レシーバーを受付にご返却ください。